

3回連続の米利下げ

ポイント① 金融市場に大きなサプライズなし

10月29、30日に開催された米国の金融政策決定の場であるFOMC（米連邦公開市場委員会）では、政策金利であるフェデラルファンド金利の目標値上限が2.0%から1.75%へ引き下げられました。7月と9月に開催されたFOMCに続いて3回連続の利下げとなりました。

米国景気が徐々に減速する中、金融市場では今回の利下げは大きなサプライズではなかったようです。

ポイント② FOMCは利下げ休止の構え

FOMCの声明文やパウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長の記者会見によれば、FRBとしては、足元の米国景気の減速は緩やかなものに留まっており、景気鈍化懸念に対する予防措置として3回の利下げを行なったことで、これ以上の減速は止められると見ているようです。

今後の金融政策は景気や物価動向次第としながらも、一段と景気が悪化しない限り、利下げを一旦止める構えなのではないかと思われます。

ポイント③ 金融緩和の効果は限定的

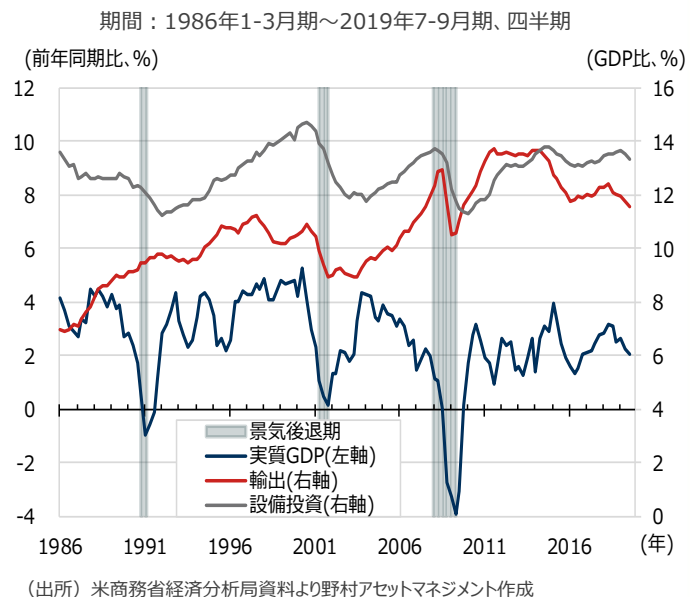
ただ、金融緩和が景気減速を止める効果については、現在の米国の景気は輸出を中心に減速していることから、金融緩和の景気刺激効果は限定的と見られます。米中貿易交渉の部分合意によって米中間の関税合戦のエスカレーションを止められたとしても、それだけでは世界的な貿易の減退に歯止めがかかりにくいでしょう。

こうした点から見ると、12月10、11日の次回FOMCや、それ以降も米国で利下げが行なわれる可能性はまだかなりあるようです。

図1：米国の政策金利と米国2年債利回り



図2：米国のGDPと輸出、設備投資



重要イベント

11月1日	米雇用統計、ISM(サプライメント協会)製造業景況感指数(10月)
11月5日	米貿易収支(9月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。